

A 群溶血連鎖球菌の薬剤感受性 試験について

山 脇 徳 美* 後 藤 良 一* 金 鉄三郎*
森 田 盛 大*

I. はじめに

昭和51年4月~53年3月の2年間に県内で分離されたA群溶血連鎖球菌(溶連菌)の薬剤感受性試験をデスク法で行なったのでその結果を概要報告する。

使用培地は、人血液を5%に加えたHeart Infusion Agar (Eiken) (血液寒天と略記)を用いた。

2. 接種用菌液と接種量

試験に当り保存菌株を血液寒天平板に再分離しコロニーの選別を行い、T. H. Bに接種、37°C一夜培養菌液0.1mlを血液寒天平板に塗抹接種した。

II. 材料と方法

表1. A群溶連菌分離株の由来疾患と菌型

疾患名	T 型								計
	12	4	22	6	1	3	28	B3264	
猩紅熱	9	10	5	1	2	1	1		29
扁桃炎		1	3	1	2				7
咽頭炎	1	1	1	3				1	7
溶連菌感染症	5	1							6
急性上気道炎		1							1
計	15	14	9	5	4	1	1	1	50
百分率(%)	30.0	28.0	18.0	10.0	8.0	2.0	2.0	2.0	100.0

1. 使用菌株と培地

使用菌株は表-1に示す患者の咽頭から分離された50株で、Todd Hewitt Broth (Difco) (THBと略記)に接種後被検時まで-20°Cに凍結保存した。

3. 使用抗菌剤と感受性測定法

表-2に示す10種類の抗菌剤、3濃度のトリデスク*栄研(栄研化学K.K.)を用い、阻止円の有無(口紙の縁から全周に渡って1mm以上の阻止帯ができた場合を阻

表2. 薬剤名, 記号, 薬剤濃度

記号	薬剤名	H*	M*	L*	記号	薬剤名	H	M	L
P C	ペニシリン	10 U	2 U	0.5 U	J M	ジマイヨサン	15μg	5μg	2μg
P C A	アミノベンジルペニシリン	20μg	5μg	2μg	M D M	マイデカン	15μg	5μg	2μg
O M	オレアンドマイシン	15μg	5μg	2μg	C M	クロラムフェニコール	30μg	10μg	5μg
E M	エリスロマイシン	10μg	2μg	5μg	T C	テトラサイクリン	30μg	10μg	5μg
L C M	リンコマイシン	15μg	5μg	2μg	C E X	セファレン	30μg	10μg	5μg

*H.M.L-: 抗生剤濃度

H-: 高濃度, M-: 中濃度, L-: 低濃度

*秋田県衛生科学研究所

止円(+)とし、それ以下を阻止円(-)とした。)により感受性を測定した。

Ⅲ. 成 績

A群溶連菌の薬剤感受性試験の結果、図-1に示すような成績が得られた。

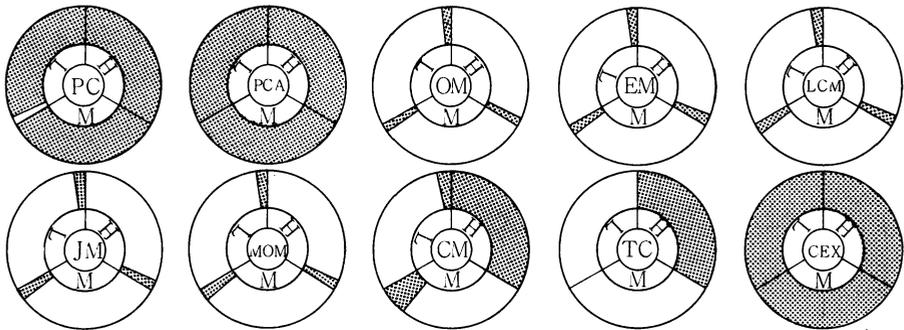
T-12型は、ペニシリン系とセファレキシンを除くすべての抗菌剤に対して耐性であった。その他の菌型では、テトラサイクリンにのみ耐性(T-4型 100%, T-1

型50%, T-6型20%, T-22型11%, T-3型, T-28型, T-B2264型各0%耐性)であったが、他の抗菌剤に対しては感受性があった。このように、菌型によって薬剤感受性が明確に2分された。

Ⅳ. まとめ

過去2年間に県内で分離されたA群溶連菌の10抗菌剤に対する薬剤感受性試験結果について述べた。

1-1. T12型菌の薬剤感受性態度



1-2. その他のT型菌の薬剤感受性態度

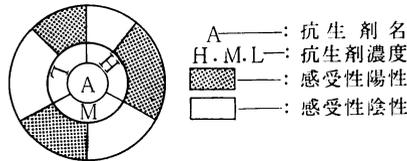
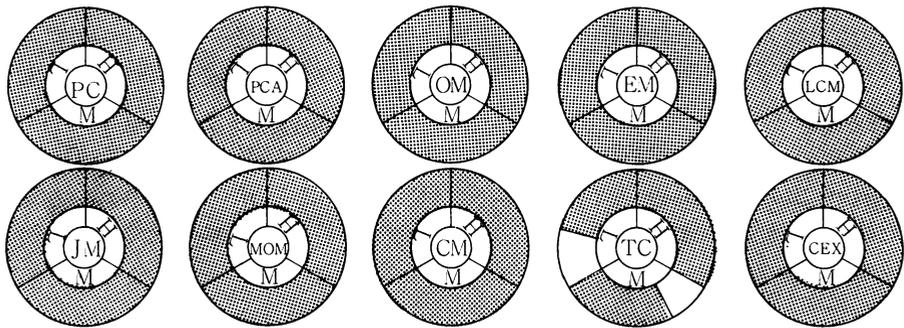


図1. A群溶血連鎖球菌の薬剤感受性試験成績